



三川内焼伝統産業会館の裏山に招魂場があり、昭和四(一九二九)年に建立された忠魂碑が建っています。その背後の森に、一抱えもある見事な赤松があり、離れた場所の一回り小さな一本と共に「相生の松」の姿を見せています。

かつては日本全国どこでも見られた松は、松山、松川など数多くの地名を生みました。しかし昭和三十年代から松くい虫(マツノザイセンチュウ)の被害が多発、ヘリコプターによる薬剤の空中散布など防除対策が続きましたが、大半の松は姿を消してしまいました。

招魂場の赤松も、地元有志の手で枯死した枝を切り取るなど、懸命の対策が取られています。現在は辛うじて亀甲型の樹皮の美しさ、常盤木と呼ばれる常緑の針葉をとどめており、日本の国土を代表する樹のありようを体現しています。



松飾り、松の内など、長寿と祖国の繁栄を寿ぐ代名詞として、一年が始まる正月行事に松は欠かせません。能の演目「高砂」は、婚礼の席で披露されるめでたいもので、高砂と住江と別れていても、通い合う相生の松の物語で永遠に変わらぬ夫婦愛を象徴しているのです。

招魂場の赤松は、植樹されたものではなく、忠魂碑が建てられる以前から生えていたのでしょう。みかわち焼の代表的な絵柄である唐子絵は、松の木の下で無心にチョウを追う子どもの姿です。また、磁器の焼成は高温が求められ、油脂分が多い松は大切な燃料でした。

人家に近い里山は、松や薪炭材としての樫、椎の木に覆われた小山で、三川内が陶境となった条件の一つも、緑豊かな用材を育む里山の連なりがあったからと思われる。

## 歴史散歩 第五七〇回 招魂場の赤松 ● 三川内本町 撮影・文 ● 筒井隆義

三川内焼伝統産業会館の裏山に招魂場があり、昭和四(一九二九)年に建立された忠魂碑が建っています。その背後の森に、一抱えもある見事な赤松があり、離れた場所の一回り小さな一本と共に「相生の松」の姿を見せています。

松飾り、松の内など、長寿と祖国の繁栄を寿ぐ代名詞として、一年が始まる正月行事に松は欠かせません。能の演目「高砂」は、婚礼の席で披露されるめでたいもので、高砂と住江と別れていても、通い合う相生の松の物語で永遠に変わらぬ夫婦愛を象徴しているのです。

## 「いのちのお話会」に参加しませんか

「赤ちゃんはどこから来るの？」

幼い子どもからの、突然のこんな問い掛けに困ったことはありませんか。また、報道される子どもの性に関する事件などで、不安を感じている人も多いのではないのでしょうか。たくさんの情報があふれている今、性教育は性に関する質問が自然に出始める幼児期から関わりを始めることが大切です。

本市では平成18年度から主に保育所、幼稚園、地域で保護者も含めた幼児向け性の健康教育「いのちのお話会」を実施しています。

「いのちのお話会」では、園児に対してはパネルを使って、男女の身体の違いや、命がどのようにして生まれてくるのかなどを話し、保護者に対しては幼児期からの性教育の大切さを伝えています。実際に参加した園児や保護者の皆さんは、説明に使うカードに興味を示してくれたり、大事そうに赤ちゃんの人形を抱っこしたりと、とても好評を得ています。

子どもたちは、自分がどのように誕生したのかを正しく知ることで、自分自身や家族、友達など身の周りにある多くの命の大切さを感じ、優しさを育むことが

### ● いのちのお話会 ●

「いのちのお話会」は、市民の皆さんの要望に応じて無料で出前講座を行っています。申し込み方法など詳しくは、子ども保健課にお尋ねください。



(写真左) 新生児の人形を使った「抱っこ体験」(右) 赤ちゃんが大きくなっていく様子をパネルで説明するスタッフ

できます。たくさん子どもたちにそんな気持ちを持ってほしいという思いを込めて、本市が思春期性教育推進実践ボランティアと一緒にしている「いのちのお話会」。家庭での話題としても、とても大切なテーマです。ぜひ一度、参加してみませんか。

☎子ども保健課 ☎24-1111

## シリーズ 佐世保の食 15 ナマコ



寒さが厳しさを増すごとに漁獲量も増えていき、スーパーや小売店などの店頭並べられるナマコ。お正月の食卓に欠かせない食材の一つとしても親しまれています。特に干満の差が少なく、海流が穏やかな大村湾で採れるアオナマコや九十九島海域で採れるアカナマコは、身質が柔らかく、おいしいと高い評価を受けています。

井に切り身を入れ、大量の大根おろしと橙を絞って食べるのが通の食べ方。さらにナマコの内臓(海鼠腸)も好きな人にはたまらない一品です。冬の味覚「ナマコ」を、どうぞご賞味ください。

☎観光物産振興局 ☎24-1111

### 人の動き 12月1日 現在

- 総人口 258,430人(-73人)  
男性 121,225人(-40人)  
女性 137,205人(-33人)
- 世帯数 105,578世帯(-44世帯)
- ※ 11月中の動き  
転入 483人、転出 520人  
出生 198人、死亡 234人

### させぼ市政だより

- テレビ (毎週土曜)  
NBC・NIB→9時25分~30分  
KTN・NCC→11時40分~45分
- ラジオ  
NBC 日曜 9時25分~30分  
FM長崎 火曜 9時5分~10分  
FMさせぼ 火曜10時30分~35分  
日曜 9時30分~35分
- 新聞  
長崎新聞 毎月第2・4火曜
- ホームページ  
<http://www.city.sasebo.nagasaki.jp/>



携帯サイト

## 徳育通信 10

### アゲハのお約束

幼児期の教育(保育)は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なものです。それは生活や遊びといった、直接的・具体的な体験を通して、情緒的・知的な発達、あるいは社会性を涵養し、人間として、社会の一員として、より良く生きるためのスタート台に立つ時期とされています。

例えばあいさつをする、相手を思いやる、時間を守る、身だしなみを整えるといった社会的・文化的な規範は、年齢に関係なく、人が社会生活を送るには必須の事項です。そのため年代に応じて繰り返しトレーニングを積みなくてはなりません。特に目先の結果ではなく「後伸びする力」を重視するのが就学前教育ですから、佐世保市内のすべての幼稚園・保育所では、それぞれの建学の精神・理念に基

づいた熱心な取り組みがなされています。

そうした中、私たちの園においても「アゲハのお約束」を合言葉とする活動を行っています。「ア」はあいさつをする、「ゲ」は元気に遊ぶ、「ハ」は話を聞くの略です。あいさつの意義は言うまでもありませんが、幼児期は遊びを通して自己を発揮し多くのことを学び、人の話を聞けるようになることで人を思いやる心が育まれると考え、機会あることに保育の中で子どもたちへ伝えるようにしています。

佐世保私立幼稚園協会副会長  
朝野 卓也



この徳育通信を切り抜いてノートに貼り、「徳育ノート」として家庭で保管しましょう!